

## おおぎ会 歩こう東海道 57 次

# “お江戸日本橋へ”

### 第 25 回

平成 25 年 4 月 13 日から 14 日

この会も 有名になったものだ。桜を愛でながらの、のぼり旅！本当は、先週に行く予定であったが、暴風雨警報を引き連れ、“爆弾低気圧” 様が無理に、参加するとか？ 丁重にお断りし、先行していただく。お蔭で、桜の盛りは逃したが、捨てたものではない！最高の“富士山”が歓迎してくれた！これが旅！ 僕らは 只 東に向かって 進むだけ。



この企画の誕生には 僕は立ち会っていないが、以後 継続され、25 回目となる。プロジェクトが、多年に亘るので、旅人の体力が、限界に近い。早く“お江戸日本橋”に立ちたい、と心は急ぐ。

東海道は 1601 (慶長 6) 年、徳川幕府が、江戸から京都間に 53 の宿駅を整備させた。京・大阪間には京街道 即ち 豊臣秀吉が、整備を行った「文禄堤」があり、未だ豊臣家は、健在であり、遠慮したのか、東道を大坂迄とは言えなかった様だ。1615 年、大坂城が落城すると、大坂 (高麗橋?) まで延長、途中 伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅を設け、東海道 57 次と、現在に至る。

旅人	A	細田 庄一
	B	藤井 博伸
	C	木本 信男
	D	中山 博夫
	F (記録)	足立 義明

(1 日目) 4 月 13 日 (土) 快晴

JR 東田子の浦 → 原宿(13) → 松陰寺 → 乗運寺 → 川廓通り

→ 沼津宿(12) → 沼津城跡 → JR 沼津

距離 12.00km (今日の歩行距離 23957 歩 \* 70cm = 16.77km)

旅立ちの朝 準備をしていると突然聞きなれないアラーム・・携帯から・・地震警報だ。同時に地震の揺れが始まる。時刻は 5:33。予報を、初めて実感したが、もう少し早ければと思った。TV で、淡路島地震との事、でも 明石大橋上をトラックが走っている。取合えず旅支度。

早朝 出発だったので、車中 藤井さん以外は眠りにつく。高速道を一気に赤塚 PA まで。休憩を取り、順調に進む。三ヶ日 JCT より第 2 東名へ・新清水より東名へと走り、富士川 SA で昼食がてら、富士のお山を堪能する。時間を忘れていた。急がなくては！ 一気に沼津まで走り抜ける。駅前の駐車場に、車を預け、JR に乗り、3 駅戻り “東田子の浦” へ

御発ち **JR 東田子の浦**

JR 東田子の浦 駅前から、県道 380(以下 R380)を東に向かう。時刻は 13:50 少し遅い。東柏原で県道 163 (以下 R163) に やがて富士市に入り、線路を横断、この辺は“桃里”昔は湿地で、“浮島ヶ原”と呼ばれ、開墾が盛んに行われたようだ。現在は宅地化され、民家が並び、その面影は無い。左手に浅間神社 先方右手に“大通寺”(後で解ったことだがこの辺が西見付)を見て先に進む。街道脇に、佇む“原の一里塚”の碑を見つけた。

**原宿(13)**

宿場の概要は、良く判らない。街道整備以前は、もっと海側にあっただらしい。慶長 10 (1611) 年の高潮により、この地に移ったとの事。江戸時代の規模は、

東西 2.7 km と長い場所に、本陣 1 軒・脇本陣 1 軒・問屋場

1 軒・旅籠屋 25 軒と、小さな宿場であった。現在は その碑が残っているだけで、宿場の面影は無いが、松陰寺には 本陣の玄関や、茶室が移築されているらしい。地図では、やたら 寺が目につく。寺が必要とされた地域か? 参勤交代の時、従者の宿泊場所としても使用されただらしい。

**松陰寺**

「駿河には過ぎたるものが二つあり 富士のお山に原の白隠」と言われ、富士の美しさは有名だが、現在は、家屋の陰になり、眺めることは不可能です。“白隠禅師生誕地碑”が街道右手にある。



白隠禅師は 1685 年この地で生まれ、32 歳で松陰寺の住職となるが、禅宗の教えを広める為、全国を駆け巡った。また画才もあり、釈迦・達磨等の禅画を多く描いている。84 歳で亡くなったが、臨済宗中興の祖と言われ、多くの信者がいたようだ。

並んで“松陰寺”がある。少し奥まって“大本山松陰寺”と書かれた大きな石柱があり、門と大きな松が見える。門を入ると右手に“すり鉢の松”(写真右)(岡山藩主池田継政より送られた、備前焼の搦鉢を、台風で裂けた松に被せたところ、そのまま育った)・正面に松陰寺・その奥に禅師の墓所がある。



その東側に“清梵寺”があり、“木像の地藏菩薩坐像”が祀られており、原のお地藏様として、有名らしい。街道に戻り、東海道線の踏切を超えると、右側に“大塚神明社”この付近が“東見付”らしい。“原宿”を過ぎた事になる。



広くもない直線道 狭い歩道を、自転車に気を付けながら、東に向かう。正面に見える小山が、なかなか近づかない。JR 片浜駅前の西友で、トイレ しばしの休息を取る。時刻は 15:40 更に東に向かう。民家の角に“松永一里塚碑”(写真)が建っている。単調な道を、黙々と旅を続ける。“西関門”の 5 差路交差点を直進、ここからは、やけに広い歩道となる“六代の松”(平家物語によれば、平維盛の子六代御前がここで切られる?) や・“若山牧水記念館”

があるが、時間の関係で、見学できない。パスし 先を急ぐ。

## 乗運寺

R163は“沼津宿”に入ったようだ。正面左手に、大きな森が見えてきた。これが“浅間神社”(近辺には多くの浅間神社があるがこれは格別大きい)しばし休息をし、海岸の“千本松原”を目指す事にする。すぐ右側、門の中に立派な庭園がある。これが“乗運寺”で、昔 武田勝頼が、北条氏と千本松原で対戦した時、伏兵の危険を避ける為、松原のすべての松を切ってしまった。この住職が民の為に、お経を唱えながら、一本・一本手植えをし、松林を再生させたと伝えられている。それにしても、きれいな庭! これを無料で見学できるのは感謝・感謝! 千本松原へは少し距離があり、日も傾いてきたので、先に進む。“新町交差点”から本町へ。この辺に“本陣跡の碑”があるのだが、大きな通りの反対側を歩いたのか、見つけることは出来なかった。大門町から“さんさん通り”を少し歩き、川に行き当たる。



## 川廓通り

これより 川に沿って“川廓通り”があり、(城壁や堀・自然の崖・川で区切られた区画を廓と言う)通りは、狩野川と沼津城の間に、挟まれた狭い通りで、船着き場として、宿場の中心的な役割を担っていました。狩野川の舟運が発達し、物資や人の交流が盛んとなり、結構繁栄えました。現在ではその役割を終え、高い堤防が築かれ、床の石畳だけが、イメージとして残っています。人道橋(あゆみ橋)の下に川廓通りの説明文と碑が建てられていた。



## 沼津宿(12)



宿場は中世に“三枚橋城”、後の“沼津城”の城下町兼宿場町として栄え、その大きさは、領地内で、街道の東西端に設けられた傍示石の間となっている。中心部に、本陣3軒・脇本陣1軒・問屋場1軒・旅籠屋55軒と、中くらいの宿場であった。しかし大正2(1913)年、出口町から出た火は、市街の多くを焼失する。後 新区画による復興を果たしたが、戦前 軍事都市化した沼津は、八度の空襲により殆どを焼きつくされ、昔の面影は残っていない。

## 沼津城跡

現在は中央公園として、残されていますが、“三枚橋城”と“沼津城”の本丸跡です。“三枚橋城”は、武田勝頼が、北条氏に対抗して天正7年に築城しました。関ヶ原の合戦の後、大久保家が引き継ぎましたが、世継ぎがなく、家は断絶し、城は廃棄された。以後 安永6年に、水野忠友が沼津領を拝領し、“沼津城”を設けましたが、規模は小さかったようで、明治4年迄残っていたそう! 沼津領は、西は小諏訪で、東は黄瀬川とされ、「従是西(東)沼津領」と書かれた傍示石が残っています。日の暮れた公園では、スケボーを楽しむ、若者が遊びに興じていた。公園入口には、スケボー禁止と書いてあったが、気にせずに!

お着き **JR 沼津**

午後6時を過ぎたけど、まだ明るさが残っている。大手町交差点か、駅前の駐車場に立寄り、荷物を持ち、宿「三交イン沼津駅前」に このホテルは、フロントが3階にあり、入口探しから始ま

ったが、無事チェックイン。時刻は 18:30 すぐに 夕食に出かける。商店街のど真ん中故、飲食店も多そうだ。何を食べるか？ 結局 回らない寿司に落ち着く。結構 繁盛しており、少し待たされる。まずまずの味 ビールと定食で 1880 円。空腹は満たされた。朝が早かったので、眠くなった。早々に、部屋に引き上げた。

## (2日目) 4月14日(日) 曇り

JR 沼津 → 長沢の松並木 → 伏見一里塚 → 三島宿(11)

→ 三嶋大社 → 初音ヶ原の松並木 → 公民館前

距離 9.40km (今日の歩行距離 18872 歩 \* 70cm = 13.21km)

朝食は 7:00 から 昨日 朝食はパンと言われていたが、和食も揃っている、和・中・洋全て試食した。チェックアウトし、車に荷物を置き、歩きの旅に出る。時刻は 7:45

御発ち JR 沼津

昨日と違い曇り空！ 旅人達は、皆元気だ 安眠の結果か？ “川廓通り” より R380 に出、少し



進み、平町の交差点で脇道へ。これが本来の旧街道だ。其の先に左に “一里塚” (写真左)がある。元来 一里は三六町 (=3.927 km)、里程標なので、三六町間隔のはず。ここは たまたま 宿場の真ん中になるので、この地に設けたと説明付き。(いい加減) 終戦直後まで榎が茂っていた。

先方 右側に、日本三大仇討のひとつ “平作地蔵”がある。(説明によると、浄瑠璃「伊賀越道中双六」に出てくる、沼津の平作ゆかりの地蔵さんらしい。) 川沿いの道を進み又 R380 に出合う。これを東に、大岡にある西友の前に “歴史マップ沼津市大岡” (写真右)があり、昔が偲ぼうと思ったが、良く読み取れない。やがて 国道と別れ、県道 145 (以下 R145) を進む。



## 長沢の松並木

左手に 亀鶴 (亀鶴は、鎌倉時代の美人白拍子で、大磯虎御前と並び称される美女であったらし



い。曾我物語の仇役の工藤祐経の愛人だった。) 姫で有名な “潮音寺” (写真左)がある。やがて先方に黄瀬川の堤防が見えてきた。中世の街道は、此处より “足柄越え” であったが、元和元 (1616) 年より箱根越えとなり、三島に向かう。昔 “黄瀬川橋” は 板橋であったが、現在付け替え工事中で、仮橋を渡り、三島市に入る。松並木が少し(約 100m)残っており、これが “長沢の松並木” (写真中)である。やがて左前方に “八幡神社” の桜並木参道があり、奥の鳥居をくぐり、小さな太鼓橋を渡り、本殿に至る。境内の左奥に “対面石” (写真右)があった。(治承 4 (1180) 年 富士川で平家軍と対峙した頼朝の下に、奥州から駆け付けた、弟の義経が対面し、二人が座った石だそうだ。)

どちらに、義経がすわったかは判らないが、大・小2個の石が鎮座している。

## 伏見一里塚

やがて R1 を横断し、少し行くと、“伏見一里塚”に遭遇する。向かって右側は、見事に整備された“宝池寺一里塚”(写真 綺麗すぎて偽物くさい…最近復元か?) ・左側は樹木に覆われた“玉井寺一里塚”と呼ばれ、それぞれの寺の名前を付け、そう読んで



いる。10分ほど歩くと、左手に“千貫樋”(写真左)の説明板を見つ



つける。注意していないと見落としそう。天文24(1555)年今川・武田と北条の3家の和睦が成立し、小浜池(楽寿園内)より長堤を築き、その水を駿河に疏水する。境川にかけられた長さ42.7m巾1.9m高さ45cm高さ4.20mの樋である。(名前の由来は、定かではないが、架設が巧みな為には銭千貫に値する。この用水が、高千貫の田地を潤す。建設費が、銭千貫を費やした。との諸説あり、何れかは天文24(1555)年迄遡らないと解らない) この辺りが“西見付”となり、“三島宿”に入る。

## 三島宿(11)



昔から、東西を結ぶ東海道と、南北を結ぶ下田街道・甲州道が交差する要衝にあり、文化や産業の交流地として、又三嶋大社の門前町として賑わっていました。規模は、本陣2軒・脇本陣3軒・問屋場1軒・旅籠74軒(天保年間)と、大きい宿場であったと思われます。箱根に関所が設けられ、宿場は江戸防衛の役割を担うようになり、又箱根峠越え前後の休息地として、多くの旅人で賑わった。大正12年の関東大震災や、昭和5年の北伊豆地震と、2度の震災を受けています。戦争では大きな爆撃を受けなかったら

しいが、宿場の面影が現存していないのは、寂しい。

右手に三石神社・境内に時の鐘が残っています。(戦時中供出)、朝夕6時に時を告げていたそうです。



三島の街は、近代的な造りに変貌しており、到底古を知ることは出来ない。通りの端の、小さな碑を探しながら進む。本町交差点の右手前に“樋口本陣跡”(写真左)・道の向こう側に“世古本陣跡”(写真右)の碑を見つけることが出来た。この辺は、町の中心部 整備された新し



い街並みを、見ながら東に進む。

## 三嶋大社

やがて左手の鎮守の森と、大鳥居が見えてきた。伊豆国一宮で、道中安全の守り神として、旅人の尊敬を受けている“三嶋大社”(写真左)である。現在の本殿は、明治2年に再建されたものである。源頼朝が源氏再興を祈願し、成就した事で、以後將軍・執権の参拝が多く行われた。境内には頼朝と政子が腰かけた



という“腰かけ石”があり、また“樹



齢 1200 年の金木犀” (写真右) は国の天然記念物に指定され、花の季節となれば、その方香が 10 km も届くとの事。又 街中には多くの鰻屋さんがある？ ウナギの産地でも無いのに何故・・・この地は、富士山の湧水が豊富で、取り寄せた鰻に、1 週間餌を与えずに晒す事で、お腹の餌などを吐き出し、余分な脂肪が取れ、美味しくなってくるとの事・・・水が良いと鰻もおいしい!

先を急ぐ旅、三嶋大社を後にする。時刻は 10:30。賑やかな町を後に R22 を “守綱八幡” 前を進む。



前方に “新町橋” (写真左) が見えてきた。ここに “東見付” があつたらしいが、見つけれなかった。橋よりの眺望は、素晴らしいとの事、今は雲で見えない。案内写真を見てください。更に進むと R22 との分岐点に “箱根道” の表示があり、小さな川を渡ると、登り坂(今井坂)、JR の線路を横切った上に、旧箱根道の看板 (写真右) が立っており、ここからが “天下の剣の箱根越え” となる。



## 初音ヶ原の松並木

早速 急な坂道、一応舗装がされているが、結構キツイ。これが “愛宕坂” である。登りきると五本松の交差点で R1 に遭遇し、登り車線の両側に、立派な松並木が続く。これが “初音ヶ原の松並木” (写



真左) で約 1 km も続いている。石畳に覆われた歩道は、その西側にあり、石畳は、近所の生活道路と兼用しているので、平石を使用している。昭和 6 年の、石畳補修記録によると、昔の石畳の上に、新しい石畳を設けたと記されている。車道の騒音は、松並木が遮断してくれている。途中 立派な “蒲田の一里塚” (写真中) に遭遇する。ここは、数少ない国指定史跡で、きれいに維持・管理されている。やがて道は、大きく開けた場所に遭遇した。塚原新田で、工事中的伊豆循環自動車道が交差し、将来 もっと便利になるだろう。陸橋を横切り、正面の山道に向かう。丁度入り口に “箱根路” と書かれた大きな石碑 (写真右) ・安全を祈願し、前の山道に押入ることとなる。

## お着き 公民館前

車の少ない住宅地内の山道を、進んで行くと、バス停 “公民館前” があり、時刻表には、一時間に一本のバス！ 旅人の意気は最高・それとも から元気？ 標高 144m、結構な登り道だったので、若干 1 名がバテ気味？ 旅人のスタミナを配慮、今日の歩きはここまで！ 不服そう！ 11 時 54 分のバスで、新設の伊豆フルーツ・パークを経て、“JR 三島” に向かう。

今回の旅で、「富士の白雪ノエ・・・」で有名な “三島女郎衆” の顔を拝みたいと、思っていたが、「・・・女郎衆はお化粧が長い お化粧長けりゃお客がこまる・・・」 次回に!

沼津駅より、駐車場へ、駐車料は、1 日分の駐車料で OK。13 時丁度に、沼津を出発 往路と同じ道を、帰っていく。途中 「静岡 SA」で、遅い昼食を取り、一気に土山まで。伊勢道では、反対車線が事故により、大きな停滞を起こしている。「土山 SA」でトイレ休憩。路銀の清算し、先を急ぐ！ 今日は非常に走りやすかった・・・運転していないけど？ 巨椋 IC から R1 へそのまま枚方まで。自宅の前で、車を降りる。皆に別れを告げ、我が家に到着 時刻は 19:10 (おわり)



**“お江戸日本橋へ”**

第26回 平成25年4月6日から5日  
 田子の浦より 由比宿・蒲原宿・吉原宿  
 無理かな 峠道……せめて関所まで！

- JR 田子の浦 → 4.6 km → 原宿 (13) → 6.0 km
- 沼津宿 (12) → 6.0 km → 三島宿 (11) → 15.0 km → 桶根宿

